

ふりがな 氏名	たけだ ひびき 竹田 響	都道府県	神奈川県	
所属/肩書	中央大学総合政策学部国際政策文化学科			
私のESD活動	分断状態における「相手の日常の暮らしが想像できない」状態を解消させ紛争を予防する（現在は日朝交流）			
ESD活動を表すキーワード	平和構築	分断解決	青年交流	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私はこれまで平和構築と人道支援の分野に関心を抱き、国家や地域間の分断状態をいかに解決できるかという点に着目してきた。2013年春に行われた“TICAD V Student Summit”でアフリカ各国から日本に留学していた学生50人と日本の学生50人で10日間かけてアフリカ大陸における平和と安定についての政策提言を行ったのを皮切りに、2013年冬には日本政府のJenesys 2.0の枠組みの中行なわれた「日ASEAN学生会議」に日本代表青年として選出され青年期におけるボランティアリズムについて政策提言を行った。昨夏からは朝鮮民主主義人民共和国（以下DPRK）・平壤にある平壤外国語大学で日本語を学んでいる学生との日朝大学生交流事業に携わっており、今夏も2回目の渡航をし、平壤外国語大学で日本語を学んでいるDPRKの大学生との交流を行う予定である。

日本とDPRKは国交が断絶された状態となっており、お互いがお互いの日常を想像することができていない。しかし私も現地に行って初めて知ったのだが、DPRKは2015年7月1日現在で135カ国と国交を結んでいる状態であり、国交が締結されている国からは多数の観光客が入っている。私たちの親の世代では、北朝鮮という言葉を目撃するだけで激しい嫌悪感を示す人が少なくないが、私たちの世代になると、当事者性が薄くなってきたことやいわゆるグローバル教育を受けてきたことも関係しているとは思いますが、「え、平壤って行けるの…？」という点から入り、「（行けるなら）行ってみたい」という発言をする人も一定数いることが分かってきた。相手が想像できない状態でも、仮に行きたい人が一定数いるのであれば分断状態を解決するための糸口となりうるかもしれないと考え、現在意識調査を実施中である。

・南北 코리아 と日本のともだち展 <http://homepage2.nifty.com/2002/friends/>

・ 코리아 こどもキャンペーン <http://homepage2.nifty.com/2002/rccj/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

今年で実施4年目を迎える日朝の大学生交流は両国における今日の最前線事業である。現在はDPRKの学生12人に対して、日本人学生が6名～7名参加して平壤で交流を行う、という形態をとっている。私個人としては日本人の参加学生をもっと増やしていきたいのだが、ヘイトスピーチや現地の受け入れ体制などの問題により、この規模での運営形態となっている。非常に有意義かつ貴重な活動を行っているのだが、広報という面ではまだまだ課題が残っている。DPRKという国を日本で語る場合往々にしてネガティブなイメージしか人々は抱いていないため、学生交流を行っているという話をするだけで非常に驚かれる。また、そもそも（私も渡航前はそうだったのであるが）DPRKに渡航することができるのか、安全性は大丈夫なのかといった点から疑心暗鬼になってしまうという状態がある。私自身の体験談などを発信していくことこそが活動を広めていく為の第一歩であるように感じている。